

19 日本国特許庁 (JP)

実用新案出願公開

12 公開実用新案公報 (U)

昭58—184480

51 Int. Cl.¹

B 66 B 7 06

17 12

識別記号

庁内整理番号

7502—3F

7502—3F

特公開 昭和58年(1983)12月8日

審査請求 有

(全 頁)

エレベーター

金沢市黒田1丁目129

出願人 木俣敏徳

21 実 願 昭57—81373

金沢市黒田1丁目129

22 出 願 昭57(1982)6月1日

74 代理人 弁理士 宮田庄太郎 外1名

23 考 案 者 木俣敏徳

明 細 書

1. 考案の名称

エレベータ

2 実用新案登録請求の範囲

最上階ばり(1)に固定した滑車(2)にロープ(3)を掛
設し、該ロープ(3)の一方はかご室(4)に取り付けた
つり車(5)に、他方は重り兼用巻き上げ機(6)に掛け
ると共に、両端を最上階ばり(1)に固着(7)(8)し、か
ご室(4)と巻き上げ機(6)とを吊設安定させた、エレ
ベータ。

3. 考案の詳細な説明

本案はエレベータの昇降装置に関するものであ
る。

従来のエレベータは巻き上げ機が屋上階の機械
室に固定されていて、該巻き上げ機に掛設したロ
ープの一方をかご室に、他方をつり合いおもりに

吊設して巻き上げ機を回転させることにより、かご室の昇降を行っていたのである。

従つて、巻き上げ機等を収容する機械室の設置を要し、ビル自体の高さ制限上不経済となる等の欠点があつた。

本案は斯る欠点を除去したものであつて、最上階ばり(1)に固定した滑車(2)にロープ(3)を掛設し、該ロープ(3)の一方はかご室(4)に取り付けたつり車(5)に、他方は重り兼用巻き上げ機(6)に掛けると共に、両端を最上階ばり(1)に固着(7)(8)し、かご室(4)と巻き上げ機(6)とを吊設安定させたものであり、図中(9)はガイド、(10)はガイド係合部、(11)は機械設置台枠、(12)は制御盤である。

本案は上記のような構成であり、かご室(4)の重さと巻き上げ機(6)や制御盤(12)等を載置した機械設置台枠(11)の重さが概ねつり合うように設定してあ

るためかご室(4)は安定している。

そして巻き上げ機(6)を回転させればロープ(3)の両端は固着(7)(8)されており、巻き上げ機(6)の回転体とロープ(3)の摩擦力によりロープ(3)が移動するから、つり車(5)で吊設されているかご室(4)及び巻き上げ機(6)が相対的に昇降するのである。

従つて、本案は従来のつり合いおもりを使うことなく巻き上げ機をおもりとして兼用することにより、巻き上げ機の設置のための屋上機械室の建設を不要ならしめ、ビルの高さ制限のある場合でも一階分の増階が可能となる。

又、つり合い重りが不要となるため設備費が軽減されると共に据付工事が容易となり、更にロープ穴が最上階天井になくなるため、外界への煙の排出を防止でき防火上の利点がある。

以上の様に本案は従来のエレベータの構成を簡

単にすると共に種々の利点ある効果を奏するものであつて有用な考案である。

4 図面の簡単な説明

第一図は本案エレベータの側面図、第二図は背面図である。

符 号

(1)はばり

(2)は滑車

(3)はロープ

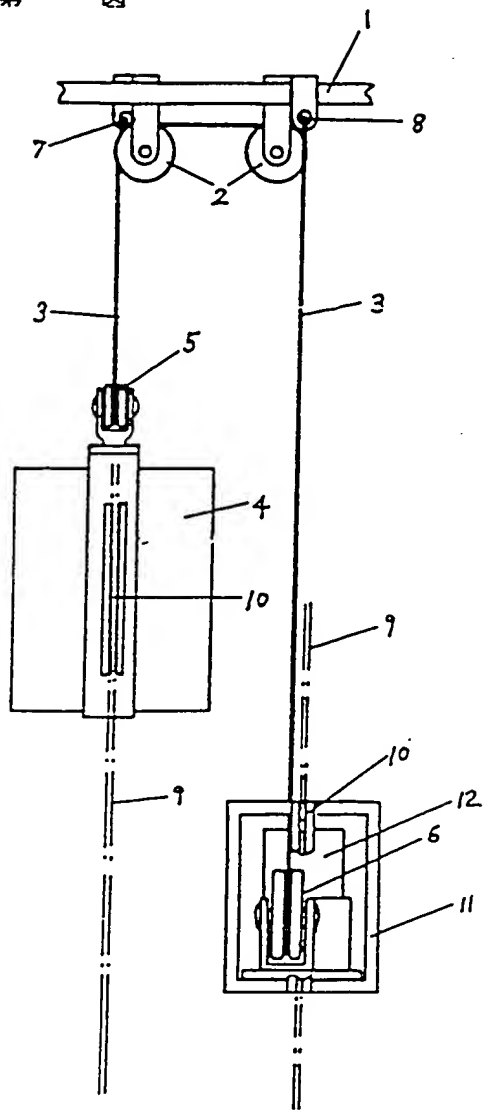
(4)はかご室

(5)はつり車

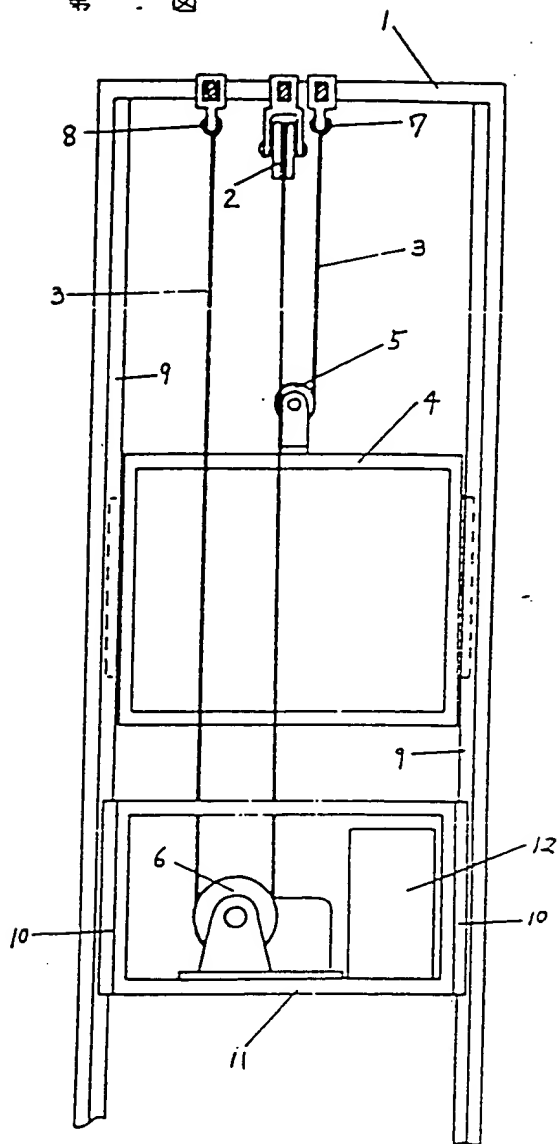
(6)は巻き上げ機

(7)(8)は固着

第 一 圖



第 二 圖



實用新案登録出願人

木 俣 敬 祐

代 理 人

司 田 町 太 郎

外 名

BEST AVAILABLE COPY